

令和元年度（第54年次）石狩管内教育研究会運営に関する基本構想

第54年次石教研の基本構造図

基本目標

「主体的・創造的で人間性豊かな子どもを育てる教育の確立」

第54年次教育研究推進の基本姿勢

「全員で創りあげる石狩の“協働”研究 ～仲間とともに未来を切り拓く子どもを育てよう！」

現代は、人工知能をはじめとする急速な技術革新や、グローバル化の一層の進展などにより、先行きが不透明な社会に移行している。これからの時代を生きる子どもには、社会の変化に主体的に向き合い、感性を豊かに働かせながら、よりよい未来を創造していくことが求められる。そのためには、見通しをもって課題にねばり強く取り組み、他者と協働しながら解決していく力や学びを生かそうとする力を育む必要がある。

石教研は、昭和41年の設立以来、三本柱を中心にその時々の教育課題に真摯に向き合い、会員個々のためめ努力で現場実践を基盤とした“協働”研究を進めてきた。その成果は、石狩の子どもたちの確かな学びや成長に寄与した。歴史と伝統で受け継がれてきた石狩の実践は、研究組織体制を支える確固たる礎である。

第54年次の研究では、石教研の意義を再確認しつつ、一人一人の課題意識を高め、全員で“協働”研究を推進していきたい。そのためには、組織的に課題を共有し、創意工夫しながら実践を積み重ね、“協働”研究を通して解明していくことが大切である。さらに、得られた成果を積極的に環流することで、一人一人の研究に対する意欲を高めるとともに、新たな課題を見だし、より一層実践の質を向上させなければならない。同じ目標や方向性を持ち、ともに切磋琢磨していく“協働”研究を管内全教職員の手で創りあげ、仲間とともに未来を切り拓く石狩の子どもを育てたい。

基本方針

石狩の子どもたちのために教育に関する専門性を高めよう

- 教科及び専門領域について研鑽し、専門性を生かした指導力の向上を図る。
- 教育にかかわる課題について識見を深め、その解明を図る。
- 学校課題研究の成果を普及・発展させ、管内各学校における教育研究の充実を図る。
- 個々の課題意識を基盤とした研修活動を推進し、教職員としての資質向上に努める。

日常実践を基盤とした自主的・共同的研究をすすめよう

- 学校や会員個々の課題の共通化を図り、共同研究としての課題設定に取り組む。
- 教科や専門領域、教育課題について、研究課題を意識した日常の実践研究に努める。
- 研究協議会を開催し、日常実践の交流と課題解明にせまる研究協議を行う。
- 研究成果を管内に広く環流するとともに、一般化に努め研究の着実な発展を図る。

教育関係機関と連携し、より確かな研究体制を築こう

- 管内教育関係機関との交流や連携の中から、研究の体制や内容などの改善・充実を図る。
- 管内市町村研究組織と連携を深め、活動の充実を図る。
- 各種教育関係機関との情報交流・発信に努める。
- 共同研究への意識向上を図り意欲と連帯感を高めるため、啓発活動に努める。

運営の重点と具体的な取組

専門部会研究	2年継続研究の2年次
取組むべき視点を明確にした日常実践のさらなる充実	
(1)	主体的な部会運営、所属感・連帯感に基づく研究推進
(2)	専門性を高める実践研究
(3)	課題の解明に向けた研究協議の充実
(4)	市町村の研究組織・部会との連携
(5)	教育課程の実践的研究

課題部会研究	2年継続研究の1年次
多岐にわたる今日的な教育課題の解明	
(1)	主体的な部会運営、実践研究の推進
(2)	課題解明に向けた研究協議会の充実
(3)	地域・保護者との連携
(4)	成果と課題の整理、次年度計画の立案
(5)	教育課程の実践的研究（道徳科）

学校課題研究	主体的に学校課題を解明する校内研究の充実
(1)	学校課題研究発表会の開催
(2)	管内小中学校への研究成果の環流
(3)	令和3年度発表の学校課題研究校の選定

連携と発信 高め合う研究・研修体制の充実

- (1) 教育関係機関との積極的な連携
- (2) 教職員としての資質を高める教育講演会の開催
- (3) 転入者および新採用者に対する啓発活動（転入者研修会 等）
- (4) 個々の実践の質を高める環流（校内研修、『石教研情報』・『石狩の教育』の発行、『環流用の資料』配付 等）
- (5) ホームページの充実と活用（ホームページ担当者研修会の開催）

石教研活動の「三本柱」

運営の重点と具体的な取組

1. 専門部会研究 2年継続研究の2年次

取り組むべき視点を明確にした日常実践のさらなる充実

部会構成 19部会

国語(小)	国語(中)	社会(小)	社会(中)	算数	数学	理科(小)
理科(中)	生活科	音楽	図工・美術	保体(小)	保体(中)	技術・家庭
英語	障がい児教育	養護教諭	栄養教諭	事務職員		

(1) 部会の主体的な運営により、所属感と連帯感を基盤とした自主的な研究推進を図る

- ① 2年継続研究の2年次にあたることから、第53年次研究での実践研究をもとに早期に研究計画を確立し、部会員が一体となって共同研究に取り組めるよう周知徹底を図る。
- ② 部会員の日常実践上の課題や部会運営に対する考えを反映するよう努める。
- ③ 共同研究体制の中で会員が相互に高め合えるような部会運営に努める。
- ④ 各部会でレポートを集約し、実践交流が深まるよう工夫する。
- ⑤ 研究推進の経過や内容が部会員にわかるよう部会だよりや部会ホームページの有効な活用を進める。
- ⑥ これまでの研究実践の成果と今後の課題を明らかにし、次年度の新しい研究の方向性を定める。

(2) 日常の実践に根ざした研究を進め、会員の専門性を高める

- ① 日常実践の中で自らの課題を明確にし、部会の研究課題とのかかわりを踏まえた研究および授業実践を進める。
- ② 子どもたちにとって「わかる楽しい授業」の構築をめざした授業研究を行う。
- ③ 実技・理論研修会では、教育の今日的な課題を意識しながらテーマを設定し、部会の研究課題の解明や会員の専門性の向上に努める。

(3) 課題解明に向けた研究協議の充実を図る

- ① 会員が目的意識をもって主体的に研究協議会に参加し、有意義な協議会となるよう内容や運営方法等を工夫する。
- ② 研究協議の中から成果と課題を整理し、次年度の新しい研究へ発展させる。

(4) 市町村の研究組織・部会との連携を強め、研究活動の充実に努める

- ① 市町村部会の自主的な研究を基盤としながら、部会研究計画に基づいて連携を深め、課題解明に向けた活動を進める。
- ② 市町村研究推進担当者と石教研事務局、中心グループと部会役員との連携を強める。

(5) 教育課程の実践的研究を進める

- ① 「石狩管内小学校教育課程追補編」「石狩管内中学校教育課程追補編」の実践検証を進め、題材・指導内容・指導時数・評価等、教育課程実施にかかわる調査研究の成果と課題を明らかにする。
- ② 教育課程研究の成果は、実技・理論研修会、第二次研究協議会等において交流するとともに『石狩の教育』第65集・部会の実践資料集等に掲載し、各校における教育課程編成の資料とする。
- ③ 「石狩管内小学校教育課程（展開編）」の作成にあたる。

2. 課題部会研究 2年継続研究の1年次

多岐にわたる今日的な教育課題の解明

部会構成 13部会

集団づくり	生き方	道徳	教育課程	情報教育
国際理解教育	環境教育	人権・平和	文化活動	安全・健康
特別支援教育	生徒指導	へき地・複式教育		

(1) 部会を主体的に運営し、課題の共通化と焦点化に努め、実践研究を進める

- ① 第53年次研究を踏まえ、今日的な教育課題や実践上の諸問題を把握し、早期に見通しを持った具体的な研究計画を立て、課題の共通化・解明を図る。
研究計画作成にあたっては、研修会・実践・レポート交流という流れになるように、1年もしくは2年の見通しを持った研究計画の工夫を図る。
- ② 研究課題を踏まえた部会員の日常実践を基盤として研究を推進する。
- ③ 各部会で全会員からレポートを集約し、実践交流が深まるよう工夫する。
- ④ 今日的な教育課題について、部会の研究課題の解明や会員の研究に役立つよう、部会運営を工夫する。
- ⑤ 研究推進の経過や内容が部会員に伝わるよう、部会だよりや部会ホームページの有効な活用を進める。

(2) 課題解明に向けた研究協議会の充実を図る

- ① 部会員の意見を反映しながら、研究協議会のあり方についてさらに検討を進める。
- ② 部会員が自らの研究課題解明に向けた交流ができるように、協議会や分科会の運営・内容の工夫改善に努める。
- ③ 校内研修会にレポート作成や協議会後の報告・交流の時間を位置づけるなど、積極的に研究協議会に関わることができるよう関係機関とも連携を図りながら、各学校へはたらきかける。

(3) 地域や保護者との連携も含め多角的な視野からの研究に努める

- ① 今日的な教育課題に対応するため、必要に応じて学校関係者以外の方との連携も視野に入れて研究を推進する。
- ② 地域の教育力の活用や地域への貢献など、地域との連携も考慮に入れ実践研究を進める。

(4) 成果と課題を整理し、次年度に向けた研究の方向性を明らかにする

- ① 1年間の研究の成果と課題を明らかにし、次年度課題部会研究の方向性を明確にする。
- ② 『石狩の教育』第65集を作成し、「レポート一覧」とともに各部会の取組について環流し、学校や個人の研究・実践の資料とする。

(5) 教育課程の実践的研究を進める

- ① 「石狩管内小学校教育課程（展開編）～道徳科～」の作成にあたる。

3. 学校課題研究

主体的に学校課題を解明する校内研究の充実

(1) 学校課題研究発表会を開催し研究校の実践過程や成果に学ぶことで、管内教育の向上を図る

- ① 平成 29 年度に指定した次の 2 校が発表会を開催する。

□江別市立大麻東小学校

「進んで考え、学び合う子の育成」

～「みんなわかる・みんなできる」算数科の授業作りを通して～

□千歳市立青葉中学校

「自ら学びに向かう生徒の育成」

～わかる授業づくりの実践を通して～

- ② 研究校は自校が取り組んできた研究課題の追究過程と成果を明らかにする。
- ③ 研究経過や内容・成果等が十分に伝わるよう公開授業や分科会等を実施し、実践的な交流が行われるよう努める。
- ④ 午後半日の日程でより効果的な研究会となるよう運営方法を検討し工夫する。
- ⑤ 研究紀要を作成し、各校での実践の資料とする。

(2) 研究成果や校内研究のあり方について交流し、管内各学校の研究推進に資する

- ① 各学校から多くの会員が参加できるような参加体制づくりに努める。
- ② 研究成果とともに研究体制や研究方法についても交流を進める。
- ③ 発表会での研究成果が各校で広く環流されるようにはたらきかける。
- ④ 研究成果を『石狩の教育』第 65 集に掲載し研究・実践の資料とする。

(3) 令和 3 年度発表の学校課題研究校を募集し選定する

- ① 学校課題研究発表会の意義について理解を深めるよう努める。
- ② 学校課題研究校の募集について管内の全小中学校に周知し積極的に応募をはたらきかける。
- ③ 選定会議を行い、令和 3 年度発表の学校課題研究校を選定し委嘱する。

4. 連携と発信

高め合う研究・研修体制の充実

(1) 教育関係機関との積極的な連携を図る

- ① 管内教育関係機関との連絡調整を行い、管内教育体制の確立と教育研究の安定と充実を図る。
特に、各市町村研究推進担当者との連携を強め、管内教育研究と市町村教育研究が組織的、効果的に推進されるよう努める。
- ② 研究活動の理解と充実を図るため、学責研修会等に積極的に参加する。

(2) 視野を広げ、教職員としての資質を高めるために教育講演会を開催する

- ① 教育の今日的な課題をはじめ、さまざまな分野の話聞くことにより、視野を広げ教職員としての資質の向上を図ることを目的に開催する。
- ② 令和元年度も、夏季休業中に開催する。 8月6日(火) 江別市民会館大ホール
- ③ 参加しやすく実りある講演会となるよう、運営面での工夫を図るとともに、地域や管内保護者の方にも広く案内する。

(3) 転入者および新採用者に対する啓発活動に努める

- ① 他管内から石狩管内に転入した教職員を対象に、石教研活動への理解を図ることを目的に転入者研修会を開催する。
- ② 参加しやすく、充実した研修会にするために、日程や研修内容等について工夫する。
- ③ 新採用者に対しては、各機関との連携を図りながら、様々な機会を通して啓発活動を行う。

(4) 研究の成果を全体で共有するため研究成果の環流を図る

- ① 専門部会研究・課題部会研究・学校課題研究等の成果の環流を進めるために、校内研修会での交流など校内体制や方法を各学校で工夫するようはたらきかける。
- ② 専門部会研究・課題部会研究・学校課題研究等の研究内容、実践内容、成果と課題について『石教研情報』や『石狩の教育』に掲載し会員に周知する。
- ③ 『石狩の教育』第65集を発行し、日常の研究や実践への活用を図る。
- ④ 各部会の研究成果を全体で共有するために「環流用の資料」を作成する。

(5) 石教研ホームページの充実と活用に努める

- ① 各部会に担当者を置き、各部会のホームページを定期的に更新して情報を広く発信する。
- ② ホームページ担当者研修会を開催し、作成に関して確認するとともに操作方法の習得を進める。